

2006年度 第20回
全日本高等学校選手権大会

(栃木県日光市、不動の滝)

OBの思い伝わる素晴らしき大会

今大会は、東海にとって成績面以外に特筆すべきことがある。それは東海OBの加藤峻一(中央大2年)・近藤友洋(東工大2年)・山下博徳(一橋大1年)がインターハイ実行委員として頑張っていたことである。前々回まで関東の高校OBが主となっていた実行委員会に、昨年加藤と近藤が飛び込んでくれた。もちろん後輩のためを思っているであろう。



入賞した後輩にインタビューする加藤峻一
大会当日の緊張感といったら、一昨年までは大変なものであった。「関東にヨソ者が乗り込んでいく」感を、被害妄想的に抱いてしまっていたように思う。それを払拭してくれたところか、先輩が後輩を思う気持ちや、実行委員として活躍する姿でしっかりと伝えてくれた。そして今回は、加藤が委員長を務めたことにより、いっそう後輩は心強かったことと思う。今後も後輩が続いてくれることを願うばかりである。
また、他校OBの皆さんにも生徒は多く声をかけてもらい励ましてもらっていた。関東関西の分け隔てなく、自らが通ってきた道の素晴らしさを伝えようとしている姿には、感動を覚える。改めて今大会の運営に対し感謝申し上げたい。

【団体】2走勝負に勝った

昨年の団体戦は、初めて東海が制覇した。それも2チームが1・2フィニッシュ！しかし直後に、宇野駿介・町井瑞希両選手の武相高校入学の報を聞き、来年は厳しい戦いになるであろうと、一年を通して団体戦については気持ち引き締まっていた。予想通りこの一年の宇野兄弟の調子は素晴らしく、東海としてはなかなかよいムードが作



ウィニングランをする伴・堀田・桜井



2位武相高1・3走の宇野兄弟

れなかった。しかし、大会当日のメンバー発表を見たときに、武相高2走が予想していた境選手でなく町井選手だった。東海の2走は、今冬調子の良い堀田。ジュニアチャンピオン大会でも宇野兄弟について3位と自信をつけていた。当人たちはそう感じなかったかもしれないが、顧問としてはこの2走が勝負になることを予感していた。

1走のスタート。中間ラジコンでは宇野駿介選手と桜井の差は1分。以下は続いていなかったため、もうスタート直後に一騎打ちになっていた。25分過ぎに会場前を通過する時の差は10m程度と、ほぼ並走。優勝設定タイムの35分ちょうどでゴールした時は5秒差。2走堀田が焦らず走ることを祈った。

結果、町井選手のミスとケガによって17分の差がついて伴へタッチとなった。堀田は35分を切る最高の走りを見せた。伴はプレッシャーを受けずに走ることができたのか、全選手中ダントツの31分台で帰ってきた。

【個人】宇野兄弟9秒差1・2位！

昨年の個人戦は、宮地が宇野夏樹選手にわずか12秒差で負けた。今年はなんと「9秒」差。しかし残念ながら、その争いに東海はからむことができなかった。

宣言通りのトップゴールを果たした岡本が「走力勝負」とゴール直後の感想

で言ったように、後続選手の間ラジコンもそのような途中経過がずらりと並んだ。その中でも宇野駿介選手の20:21が他より2分程度抜きんでいた。そのままゴールし、設定タイムを上回る43分でゴール。岡本・桜井は50分程度。このまま決まるかと思われたときに、小山選手(麻布高1)の中間が20:27と出て一盛り上がり。実は前日のスタート順抽選会で、他校選手からライバル選手として何度も名を挙げられ、返しの言葉で「明日誰の首に金メダルがかかっているか楽しみにして」と言い放っていたのである。実際そのままの勢いで48分という好タイムでゴールした。抜群の肝っ玉ぶりを発揮した活躍ぶりには目を見張った。



今後が注目される小山選手(麻布高1)

そしてすぐにラストスタートの宇野夏樹選手の中間が20:24と、弟を3秒下回るタイムが出てまた盛り上がった。シード選手は、駿介選手と同じように「5から「9」へ行ってしまった...」というミス而走力で挽回できずに3位。その後は、もうあと何秒で弟の優勝が決まるというカウントダウンが始まった。そしてもう決まったかと思われた瞬間にラスポに兄が現われた。なんと9秒抜いてのゴール！昨年に続き秒差で優勝を決めた。表彰式では「インカレ目指して頑張る」とコメント。ぜひIH覇者の実力を大学でも見せ付けてもらいたい。今後のIHのためにも大事なことだと思う。



高校個人選手権1-6位(左から)

そして少々気が早いですが、来年度は宇野駿介選手に小山選手に堀田が核となると予想される。そして受験生の伴・桜井。またそこに、今回中学生クラスでダントツの成績で優勝した野本選手(麻布中3)が加わる。東海も走力自信のある近藤が高1になる。桐朋は団体戦出場チームでもわかるように、かなり層が厚い。来年度は個人戦も団体戦もかなり混戦すると今から予想される。



中学生個人 2位鈴木 1位野本 3位近藤

地図読み・コース予想

今回のテレインはまったく走ったことがなかったので、まず地図を手に入れることから始まった。中学3年の坂井が独自に安齋さん(三河OLC)に依頼し、地図を貸してもらうことができた。それを以って地図読みとコース予想を始めた。特に直前はリレーと個人のコース予想を繰り返し、多くの者が地図を頭に入れて走ることができた。

走力UPを誓う

しかし、二日間を終えての反省会では多くの者が同じ反省を述べていた。「走力不足……来年はもっと走って……」と。リレーは未完走チームを減らす意図からか、予想コースよりも若干易しいように感じた。また、個人戦に至っては、多くが道走りとなるコースで、伴や桜井は宇野兄弟にはまったく走力で歯が立たなかった。

昨年来、通常の授業後練習がほとんど「サッカー」に切り替わった。近くの河原まで往復6kmほどランニングしてサッカーをして帰ってくる。この一年間は高3を担任していたこともあって、まったく練習の様子を見ることができなかった。各自それぞれの自覚によりサッカー練習での効果はちがっていたと思うが、昨年のようにサッカーでつけた走力が発揮できなかったのは結果の通りである。来年度は週3回の授業後練習改革と、各自の自主トレでどこまで走力差を縮めることができるかがカギになるであろう。

東海高校入賞者のコメント

【団体戦】第1位 東海E Aチーム

第1走 桜井郁也(2年)

僕は1走だったので、目標は「周囲

の人を上手く使いながら走る」と考えていたのですが、1ポまでの道のりでバラけ、結局その後は単独で走ることになりました。したがって、よく地図を読み走ることができたのではないかと思います。コースは、途中傾斜が緩いところを横切る、よく地図を見ずにアタックしていくと現在地口しそようなレグがあり、そこが一番ミスしやすく難しいところだったかと思いました。何はともあれ、優勝できてよかったです。

第2走 堀田遼(1年)

私は2走で、3走には伴先輩が控えていたので、少し差をつけてつなぐくらいの気持ちで走りました。結果的には町井君(武相高2走)がミスった上にケガをしたということで大きな差となりましたが、それでなくても十分勝てる走りができたと思います。

コースは、初めが登り、中盤は平らな微地形、後半は道走りでした。私はあまり技術レースに強くないので、走る前は微地形に注意して走ろうと考えていました。しかし、微地形のポイントは予想よりも少なく、ミスなく通過できる程度だったので、安心して走ることができました。全体的に走力勝負の要素が大きく、レース展開が早かったので、非常に楽しんで競技・観戦することができました。役員の皆様、楽しいレースを用意していただき本当にありがとうございました。自分としては納得のいく走りをし、最大の目標であったリレー優勝を飾ることができ、満足しています。

第3走 伴毅(2年)

今回の団体戦は、2走で差が開いたため、予想していたよりも気楽に走ることができ、またコースもほぼ予想通りだったので、事前の地図読みの成果もあって、地形が良くイメージでき走れたと思います。

本来団体は3人ずつの勝負でありませんが、今回の東海は団体出場の2チーム6名の総合力と勝負強さで勝っていたと思います。高校最後のリレーに満足しています。

【個人戦】

第3位 伴毅(2年)

個人のコースも前日の団体に続きほぼ予想通りでした。コースとしては、鞍部やピークにおいてあるポイントを、逆の沢や根元にすればもう少し技術的な要素が増えたと思います。私自身においては、地図読みにかかる絶対的な時間が少なかったと思います。しかし、ミスしてから立ち直りが良かったおかげで、なんとか3位に入れました。今後も基本の地図読みをしっかりとやっ

ていこうと改めて思いました。

第5位 桜井郁也(2年)

目標の入賞が達成できたのはうれしかったのですが、それほどミスしていないにもかかわらずトップと7分差が開いてしまいました。僕は走力差だと思っているのですが、走力では正直勝てないと思っていたので、妥当な結果だったのではないかと思います。

振り返ると、前日の団体戦以上に落ち着いてルートプランを考え走れたのではないかと思います。ミス後も上手く切替えができました。E権も獲れたことですし、今以上に走力、体力は落ちているでしょうが、来年も頑張りたいと思います。

第6位 岡本将志(3年)

前日の団体戦が案外なんとか走れたので、個人戦もそこそこいけるかなと思っていたのですが、さすがにそこまですぐ甘くなかったです。特に、今年はイメージで走力メインのコース設定だったので、他の選手があまりミスをせず、前のスタートの選手にいっこうに追いつけないことに焦って自分でミスしたりとあまり上手くいきませんでした。

今回の雪辱はインカレで果たしたいと思っています。

【高校団体選手権クラス】

1東海E A	桜井 堀田 伴	1:41:45
2武相E A	宇野駿 町井 宇野夏	2:01:25
東海E B	前澤 岡本 宮地	2:20:00
3桐朋E A	細淵 太田 山崎	2:33:51

【高校個人選手権クラス】

1宇野 夏樹	武相 3	0:43:19
2宇野 駿介	武相 1	0:43:28
3伴 毅	東海 2	0:47:28
4小山 達之	麻布 1	0:48:41
5桜井 郁也	東海 2	0:50:22
6岡本 将志	東海 3	0:51:40
7遠山 那由他	桐朋 1	0:55:55
8細淵 晃平	桐朋 1	0:59:40
9境 雅臣	武相 2	0:59:54
WE1高野 美春	秋草 3	1:01:18
10山崎 純	桐朋 1	1:02:22

【中学個人クラス】

1野本 圭介	麻布 3	0:23:47
2鈴木 周	東海 2	0:27:46
3近藤 康満	東海 3	0:28:43
4二見 浩司	桐朋 2	0:28:50
5山田 晋太郎	東海 3	0:28:58
6渡辺 幸	米沢 1	0:29:22
7尾崎 弘和	麻布 3	0:29:42
8村上 宗一郎	東海 1	0:30:22
9平井 皓基	東海 2	0:30:46
10深田 恒	東海 1	0:32:32

I H 2006 公式H P

<http://ih-orienteering.hp.infoseek.co.jp/>

(大野聡生)